

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



# Our よしのがわ

Vol.49

2022年7月号

## 事務所だより

- ・勝命堤防竣工式を開催しました
- ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況
- ・令和4年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション

## 連載

- ・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国
- ・吉野川歴史探訪：吉野川下流の内水対策について  
～その3 飯尾川の河川改修と内水対策～
- ・吉野川講座：～川を知り、安全に川を楽しもう～

## 現場だより

- ・建設業の生産性向上及び安全性向上、担い手確保を目指して 【吉野川美馬出張所】
- ・国土交通省・徳島県・阿波市・美馬市の合同で「排水ポンプ車訓練」を実施しました。
- ・重要水防箇所を市町と合同で巡視しました

交流体験in吉野川（中流編）の様子  
（令和3年7月 美馬市）

発刊



国土交通省 徳島河川国道事務所





## 【連載】P1～

・コウノトリ・ツルでつながる阿波の国:

おがわ なおき くらかわ つよし  
小川 直樹さん / 黒川 剛史さん

・吉野川歴史探訪:吉野川下流の内水対策について～その3 飯尾川の河川改修と内水対策～

・吉野川講座:～川を知り、安全に川を楽しもう!～

## 【事務所だより】P15～

・大規模洪水に備え、演習を実施しました!

～令和4年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～

・～岩津下流無堤地区解消!～勝命堤防竣工式を開催しました(案内図②)

・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況(R4.5月末現在)

・吉野川河川一斉清掃～たくさんのゴミが集まりました～

・河川愛護月間ポスター

## 【現場だより】P24～

・建設業の生産向上及び安全性向上、担い手確保を目指して

ー 定置式水平ジブクレーンについて ー【吉野川美馬出張所】(案内図③)

・重要水防箇所を市町と合同で巡視しました～出水に備え1市3町の首長と現地確認～

・国土交通省・徳島県・阿波市・美馬市の合同で「排水ポンプ車訓練」を実施しました。

(案内図④)

## 【ミニ情報発信室】P29

## 【吉野川Diary・編集後記】P30

### 案内図



表紙の写真:吉野川(美馬市)  
(案内図①)

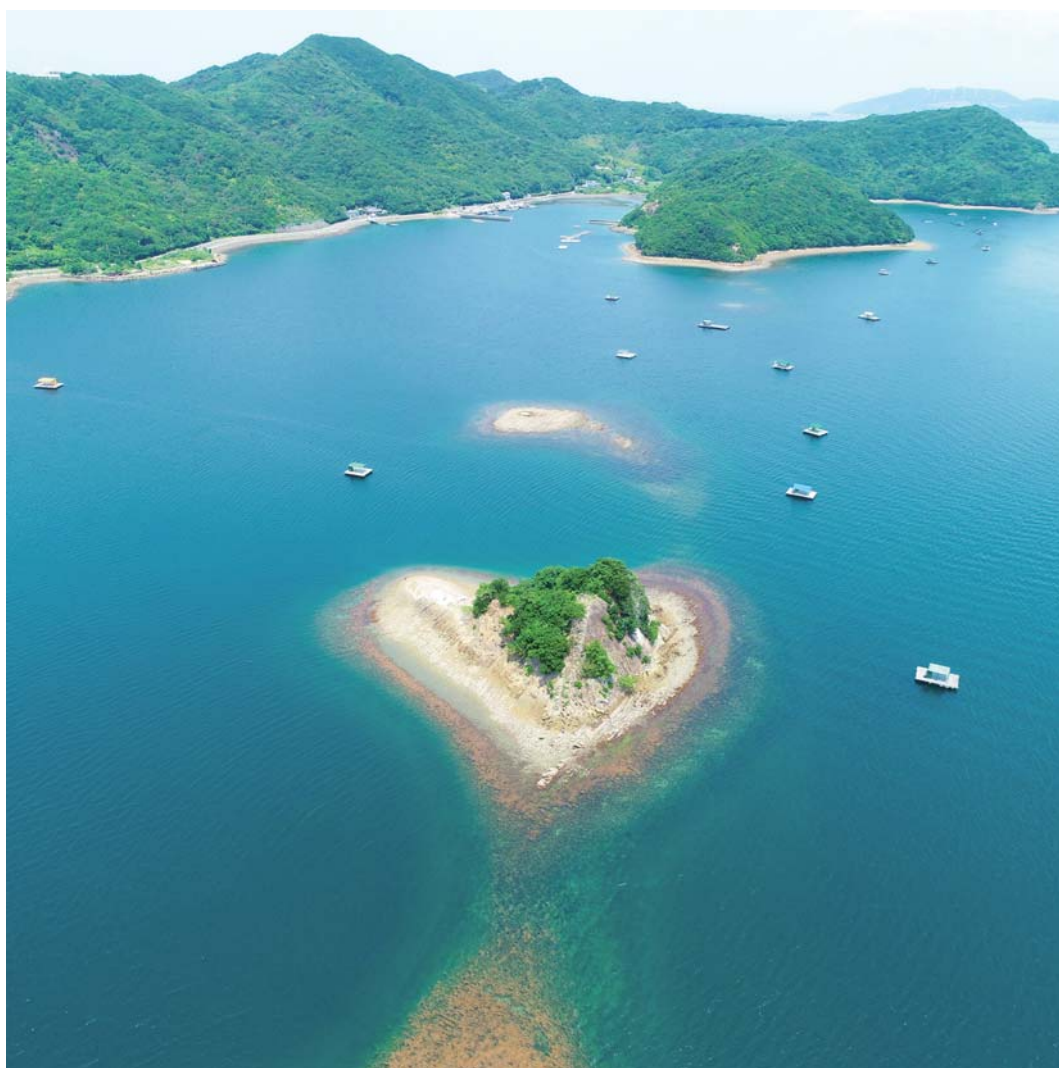




## コウノトリ・ツルでつながる阿波の国

To the future with the stork and crane

国土交通省では、コウノトリやツルの生息環境の整備とともに、そこに生きる人々がいきいきと暮らせる地域づくりに取り組んでいます。このコーナーでは、地域の話題やそこで輝く人々をご紹介します。今回は、写真家 おがわ なおき 小川 直樹さん、リユースショップ経営 くろかわ つよし 黒川 剛史さんの登場です。



写真撮影:小川 直樹さん

釣り船用の筏が点在し、美しいエメラルドブルーのウチノ海。ここに地元の漁師さんが1年に1回、漁の安全を祈る神事を執り行い、神の宿る島として、大切にされている『鏡島』があります。

昨年、この島が上空から見るとハートの形をしていると話題になりました。今回は、『鏡島』を上空から撮影し、ハート型の島として紹介した地元の写真家 小川 直樹さんに話を伺いました。



## 美しい鳴門市の風景や文化、産業を 世界へ発信したい

写真家 小川直樹さん



「海が見える場所に住みたかったんです」と微笑む小川さん。

小川さんは、2014年鳴門公園近くにスタジオを開き、写真家として活動しています。それまでは、東京の写真スタジオで広告写真の撮影に携わり、大手メーカー等の依頼を手掛けながら、腕を磨きました。広告写真で培った経験を活かし、生まれ育った鳴門市へ帰郷後、「地元を様々な形でPRできたら」という想いを胸に、徳島県内で企業のPRや、広報誌等さまざまな撮影をこなしています。

鳴門市の風景は、「こんなきれいな場所、放っておくのはもったいない」と仕事の合間に撮影していましたが、大鳴門橋や渦潮などは、なかなか納得する写真が撮れず、ドローンでの撮影を始めました。

それからは、渦潮だけでなく、鳴門市のさまざまな風景を空の上から撮影していく中で、ハート型の島を発見することができたのです。小川さんによれば、ウチノ海にハート型の島があることを知っている人もいたそうですが、このように上空から写真や動画でその姿を確認できたのは、初めてだそうです。

「ハート型の島を撮影してから、僕もその反響に驚いています」という小川さん。インターネット等でハート型の島の写真や動画を

紹介したところ、東京のニュースや情報番組から取材の申込みが殺到し、画像提供を行い、電話インタビューも受けました。

ハート型の島の写真や動画を見  
ることができるHeart-Island  
ウェブページ



大鳴門橋と鳴門の渦潮

写真撮影:小川 直樹さん





フレンチモンスター瀬戸内フードアートで販売されているハートのマカロン(5月末撮影)

『鏡島』を見ることができる鳴門スカイライン<sup>よちみ</sup>四方見展望台隣の『フレンチモンスター瀬戸内フードアート』では、ハート型の島の写真を展示し、その島について説明したり、ハートにちなんだタルトやマカロンの販売をしたりしています。「地元のお店が盛り上げてくれるのは、うれしいですね。地元の漁師さんにとって大切な場所ですので、配慮しながら、多くの人に知っていただけたら」と小川さんは想いを語ってくれました。



やわらかな緑が広がる里浦の芋畑  
写真撮影:小川 直樹さん

コロナ禍になる前は、よく小学校の出前授業にも出かけていました。ドローンで撮影した、上空から見た鳴門市の写真を見せてあげると、子どもたちは皆「ごっつい(すごい)きれいなー」と言います。「そうだろう、これが君たちの住んでいる町だよ。君たちはこんなにきれいな町に住んでいるんだよ」と声をかけています。子どもたちにとって、ふるさと鳴門の美しさを再発見する良い機会となったようです。

全国紙の企画で、世界遺産の撮影チームに入り、世界を旅していたこともある小川さんから見ても、鳴門市は世界に誇れる美しい場所だと言います。紀伊水道から朝日が昇り、瀬戸内海に夕日が沈む。茜色の空、芋畑の緑、青い海、そんな風景を小川さんは写真を通じて全国や世界へと発信したいそうです。そして、「風景だけでなく、例えば、農業であったり、漁業であったり、その風景の中で生きる人々も残していきたいです。今は、体験型の旅が基本ですから、この鳴門でどんなことを体験できるか、映像で残していくことも大切だと思っています」と今後の展望を語ってくれました。



夕暮れの小鳴門海峡

写真撮影:小川 直樹さん

小川直樹写真事務所ウェブサイト→



## 鳴門市の海からはじまる循環型社会への貢献



合同会社スターフィッシュ  
黒川 剛史さん

黒川さんは、2021年春にモノを再利用して循環させるリユースショップ『くるくるリユース』をオープンしました。会社名の『スターフィッシュ』は日本語に訳すと海にいる『ヒトデ』ですが、『<sup>ひとで</sup>人手がたりないからお手伝いをする』、『人の手で作ったものを大事に』という意味が込められています。

今までスキーインストラクター、IT関連、居酒屋店主といった様々な仕事を経験してきました。東日本大震災後、地方への移住者が増え、自分の将来を考え始めた頃、父親が自身の故郷である鳴門市北灘町で簡易郵便局を始めることになり、ITの経験がある黒川さんに手伝ってほしいと依頼がありました。最初は週末だけパソコン操作等の指導のために兵庫県から通っていましたが、地元の新鮮魚の美味しさも決め手の一つとなり、2012年に移住して郵便局業務を手伝い始めました。

県外の友人を魚が美味しいと評判の店に案内した帰り、海に多くのゴミが漂着しているのを目の当たりにし、「美味しい魚が捕れる豊かな恵みをもたらす海を守りたい。海のゴミを拾いたい」と強く思いました。その頃、鳴門市にあるカフェの改修と運営に関わったことでお客様や地元の方とつながりができ、その方々と毎月海岸清掃を始めました。清掃活動は、2017年から『うずしおクリーンアップ』と名付けられ今も継続しています。



地元のカヤック業者の協力で実施しているSUPを使った清掃活動。



清掃の活動資金になっているのが海で拾った流木で作られた『流木ペン』の売上金です。清掃活動を始めた頃に兵庫県明石市で美容室をしている友人から「お店の飾りつけで流木を使いたい。流木でペンも作ってもらえないだろうか？」と依頼があり、独学でおしゃれな『流木ペン』を作ったところ、美容室でペンを見たお客様から「私も欲しい」という多くの声があがりました。そこで「『流木ペン』の売上げを海岸清掃の資金に回し、その売上げでまたゴミを拾うと、有意義な循環になり、楽しいしサステナブル（持続的）になる」と今の仕組みにたどり着きました。『流木ペン』は、捨てられるはずだったものに新しい価値をプラスして製品化するアップサイクル商品です。

2020年秋の清掃で、千鳥ヶ浜の岩場に大量にたまったゴミの中に、鳴門市の海岸から約100キロ離れた三好市の栗山地区から流されたとみられる市営バス停の表示板が見つかりました。三好市に確認すると、2018年7月の西日本豪雨の土砂災害で吉野川に流された物でした。ゴミは川を流れて海に出てくるという証拠でした。現在は三好市が引き取り修繕され、元々あったバス停で利用されています。

黒川さんの清掃の目的は「ゴミを拾って海をきれいにするだけではなく、海から離れた川の近辺の方にも海に関心を持ってもらうこと」です。川から流れ出るゴミを防げば海のゴミを減らすことができます。

吉野川流域でも『海ゴミ出前講座』を開催し、参加者と一緒に用水路の清掃を実施しています。拾ったゴミを題材に「このゴミも拾わなければ雨が降って用水路から川に流れて海に漂着してしまう」と説明すると、参加者にも海に関心を持ってもらいやすくなるそうです。

今後は、石井町の社会福祉法人や阿波市の木工作業所の方と一緒に吉野川の清掃活動をする話もあり、海から離れた場所での活動も増やしていきたいと考えています。



鳴門市島田島の田尻浜での清掃活動の様子。



『流木ペン』今後は、社会福祉法人との共同で『流木キーホルダー』を製作することも計画されています。



発見されたバス停の表示板を持つ黒川さん。



吉野川市山瀬公民館で開催した、『海ゴミ出前講座』

合同会社スターフィッシュウェブページ→  
清掃と商品の写真提供：合同会社スターフィッシュ





## 吉野川歴史探訪

## 吉野川下流の内水対策について

## ～その3 飯尾川の河川改修と内水対策～

お疲れさまです。別宮川三郎です。6月下旬に早々に梅雨が明け、その後、台風4号が上陸しましたが、吉野川流域では大きな水害もなく、早明浦ダムの貯水率も少し回復し、恵みの雨となり幸いでした。しかし、出水期は始まったばかりです。7月7日、西日本豪雨から4年が経過しましたが、被災地では完全に復旧復興ができていない状況です。このような壊滅的な大水害はいつどこで発生しても不思議ではありません。皆さん、日頃からの備えを心がけましょう。

さて、前回、吉野川下流の内水対策として、吉野川の堤防整備により県下最大の内水河川となった飯尾川の河川改修のはじまりである昭和初期の整備について探訪しました。今回は昭和30年代から再開された河川改修と内水対策について探訪したいと思います。



図1 飯尾川閼放水路下流位置図

## 1. 河川改修の再開

飯尾川は、昭和7年から11年まで中小河川改修事業として、吉野川への洪水排水地点を、吉野川第1期改修工事で設置した第1樋門から約1.7km延伸して第2樋門を設置し鮎喰川へ合流させました。また、上流8.6km区間の河道改修を行うとともに、改修区間の上流端に下流の洪水負担を少なくするため、「加減堰」という人工狭窄部を設けたのです。

その後、加減堰から上流について見るべき改修も行われず、出水の度に浸水被害を受けていました。特に、昭和29年9月の台風12号（ジューン台風）では、350haが浸水し、百数十戸の家屋が15時間に及ぶ浸水被害が発生しました。このような頻発する浸水被害に対して、戦後、徳島県において基礎調査が始められ、さらに、昭和31年からは中国四国地方建設局（現在の四国地方整備局）においても直轄調査を行うこととなり、3年後の昭和34年8月に計画をとりまとめ、徳島県に引き継いだと記録されています。



写真1 加減堰

出典：吉野川水系中央南部圏域（飯尾川）  
河川整備計画



この計画は、洪水氾濫等のほとんどを占める加減堰上流の水害を軽減する目的で、鮎喰川合流点から上流約16kmの関地点（現在の石井町と吉野川市の境）より、吉野川の江川樋門直下流に延長約1.5kmの放水路を設け、排水能力20m<sup>3</sup>/sのポンプによって上流地区（吉野川市鴨島町）の洪水を吉野川へ排水するとともに、加減堰から上流の河道整正を行い洪水疎通能力の増大を図るものでした。

徳島県では、この計画に基づき、昭和34年から第2期改修（中小河川改修事業）に着手して、昭和41年度には飯尾川（関）放水路工事を完成させ、昭和44年度に内水排除施設である飯尾川排水機場（20m<sup>3</sup>/s）を完成させました。総事業費は537百万円でした。



写真2 飯尾川（関）放水路

## 2. 治水計画を見直し 放水路による治水方式をさらに発展

関放水路及び排水機場の完成後も洪水が相次ぎ、昭和50年8月の台風6号では、浸水面積2267ha、浸水家屋1872戸。昭和51年9月の台風17号では、浸水面積3544ha、浸水家屋1709戸の深刻な浸水被害が2年連続して発生し、徳島県が管理する河川の中でも突出するものでした。

このような水害や流域内の開発状況を踏まえ抜本的な治水計画の見直しを行う必要があり、昭和46年度から建設省（現在の国土交通省）と徳島県で共同調査を開始して、河川改修計画を徳島県が、内水排除計画を建設省がそれぞれ分担して改修計画の抜本的な見直しを行って、昭和58年に「飯尾川改良工事全体計画」を策定しました。



写真3 昭和51年9月洪水による飯尾川流域の氾濫被害

出典：吉野川水系中央南部圏域（飯尾川）河川整備計画

この計画は、飯尾川の治水安全度を1/50と定めて洪水処理流量を決定していますが、全てを河道で処理することとした場合、加減堰下流では現状川幅の2倍強の用地が必要になることや、それまでの飯尾川の治水事業の経緯を考慮すれば、下流への洪水流下量を制限する「加減堰」の存在が示すとおり、地元の合意を得て、全てを河道で処理することは到底不可能と判断し、従来の関放水路の治水方式を発展させることにより、下流の負担を軽減して改修規模を極力小さくする方針としました。

具体的には、放水路ルートを新たに選定し、放水路の規模、ポンプ及び河道等の整備に要する事業費を総合的に勘案して、従来整備した関放水路流末の20m<sup>3</sup>/s ポンプを、さらに20m<sup>3</sup>/s 増強するとともに、新たに角ノ瀬地点（徳島市国府町）で吉野川への放水路を設けて40m<sup>3</sup>/sのポンプを整備する洪水処理計画としました。

これは、頻発する浸水被害に対して、流域全体の安全度を早急に高めるために、通常下流から行う河川改修を、角ノ瀬放水路分派点上流（徳島市国府町）、加減堰上流（石井町）、関放水路分派点上流（吉野川市鴨島町）の3区間で、それぞれ並行して下流の安全度に応じた河川整備を行う上下流バランスを最大限考慮した計画でした。この計画は、昭和62年に変更され、平成19年策定の吉野川水系中央南部圏域（飯尾川）河川整備計画に引き継がれています。

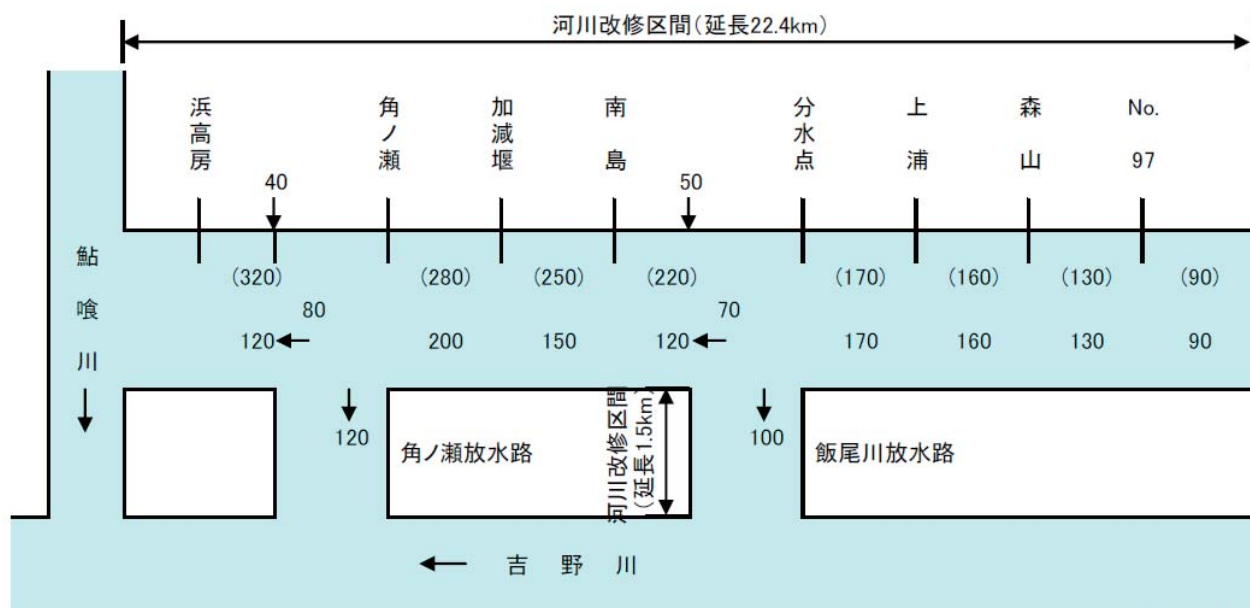


図2 計画高水流量配分図 ー飯尾川、飯尾川排水路ー 単位:  $\text{m}^3/\text{s}$   
( )書きは基本高水流

出典: 吉野川水系中央南部圏域(飯尾川)河川整備計画

### 3. 全国第1号、総合内水対策緊急事業の採択 流域治水の先取り

飯尾川改良工事全体計画(1/50)策定後、当面の目標安全度を1/5とする計画に基づき、徳島県では河川改修や角ノ瀬放水路計画に伴う用地買収に着手・推進するとともに、建設省は直轄事業として、新飯尾川排水機場の全体計画20 $\text{m}^3/\text{s}$  ポンプのうち10 $\text{m}^3/\text{s}$ を昭和58年度に、残り10 $\text{m}^3/\text{s}$ を平成5年度に整備しました。また、角ノ瀬放水路工事は、水位維持堰も含め国及び県により昭和61年度に着手し平成2年度に完成しました。総事業費は302百万円でした。

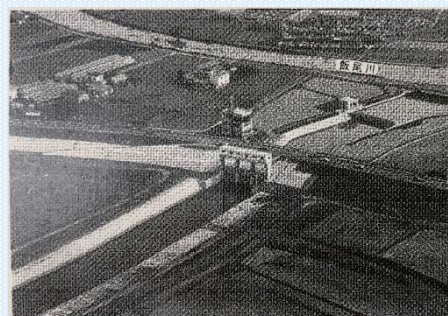


写真4 角ノ瀬放水路

出典: 吉野川百年史

しかし、平成16年10月の台風23号洪水は、吉野川岩津地点で戦後最大流量を記録し、飯尾川では、関放水路、角ノ瀬放水路が完成し、上流側の関放水路には40 $\text{m}^3/\text{s}$ の排水機場が整備されていましたが、飯尾川全体の河川改修としては整備途上であったことから、吉野川本川の水位上昇の影響により、飯尾川流域の洪水は排水が困難になり、流域一帯に内水として湛水しました。その水害は、放水路や排水機場が整備される前の昭和51年9月台風17号とほぼ同等の浸水面積3630ha、浸水家屋は1305戸(うち床上浸水341戸)に及ぶ甚大な被害となりました。



写真5 平成16年10月23号台風 吉野川市役所前の被害状況

出典: 吉野川水系中央南部圏域(飯尾川)河川整備計画



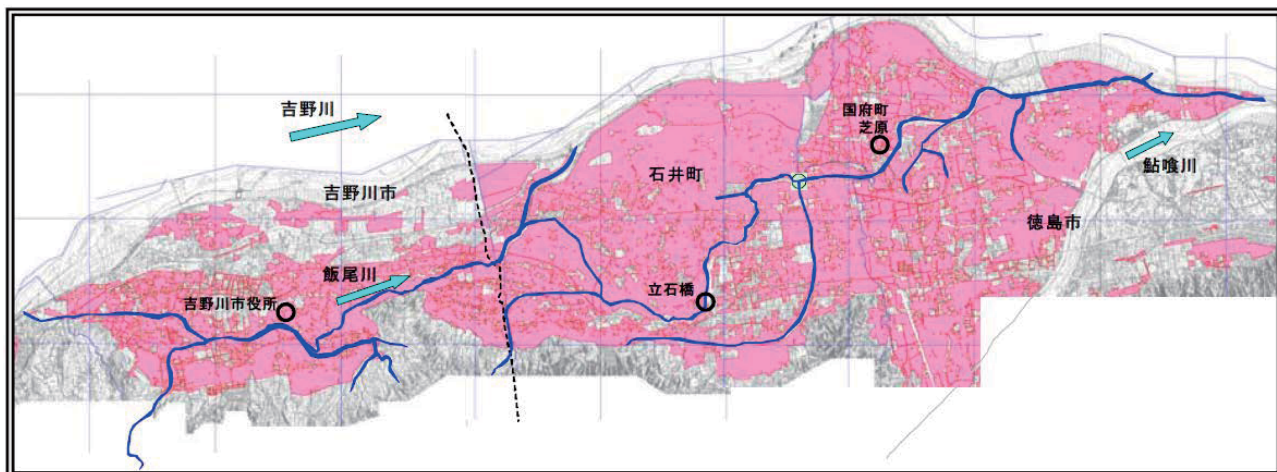


図3 平成16年10月23号台風 浸水実績図

出典：吉野川水系中央南部圏域（飯尾川）河川整備計画

この水害を踏まえ、再度災害防止に向けた新たな事業展開の立案が急務となり、国と徳島県共同で検討を進めた結果、最下流（鮎喰川合流部）の飯尾川第2樋門を1/50として改築し、加減堰から下流河道の未改修区間1.3kmを1/5に整備することに加えて、角ノ瀬放水路地点に排水機場を整備することにより、台風23号の浸水被害のうち、床上浸水被害は解消できることから、当面の目標として事業を実施することにしました。事業は、国が角ノ瀬排水機場の新設、徳島県が河道改修と飯尾川第2樋門改築と分担して実施しました。

角ノ瀬排水機場の規模は、西環状線及び側水路整備により、流域の排水形態が大きく改変されるため、その影響を考慮し20m<sup>3</sup>/sとしました。事業は、平成16年度の補正予算から着手し、本格的な工事に向け、平成18年度からは、集中的に予算が充当できる「床上浸水対策特別緊急事業費」が採択され、平成21年度に完成させました。

また、徳島県が行う河道改修と飯尾川第2樋門改築は、平成16年水害で顕在化した深刻な内水被害に対する新たな新規施策として「総合内水緊急事業」が平成18年度に創設されたことから、飯尾川は全国第1号として採択されることとなりました。この事業は内水対策に特化した事業で集中的な予算充当が可能でしたが、一方で、採択要件として流域における流出抑制策や被害軽減を図るソフト対策を求められており、現在の流域治水の先駆けとも言える画期的な事業でした。飯尾川第2樋門は、昭和初期に造られた4門のマイターゲート式の樋門でしたが、1/50計画流量にも対応できるよう4門のローラーゲート式樋門に改築されました。また、加減堰下流の未改修区間1.3kmの河道も1/5洪水を流下できるよう河道掘削等を行い、平成23年度に「総合内水緊急事業」は完了し台風23号の浸水被害のうち、床上浸水被害は解消できることになりました。



写真6 飯尾川第2樋門改築前



写真7 飯尾川第2樋門改築後



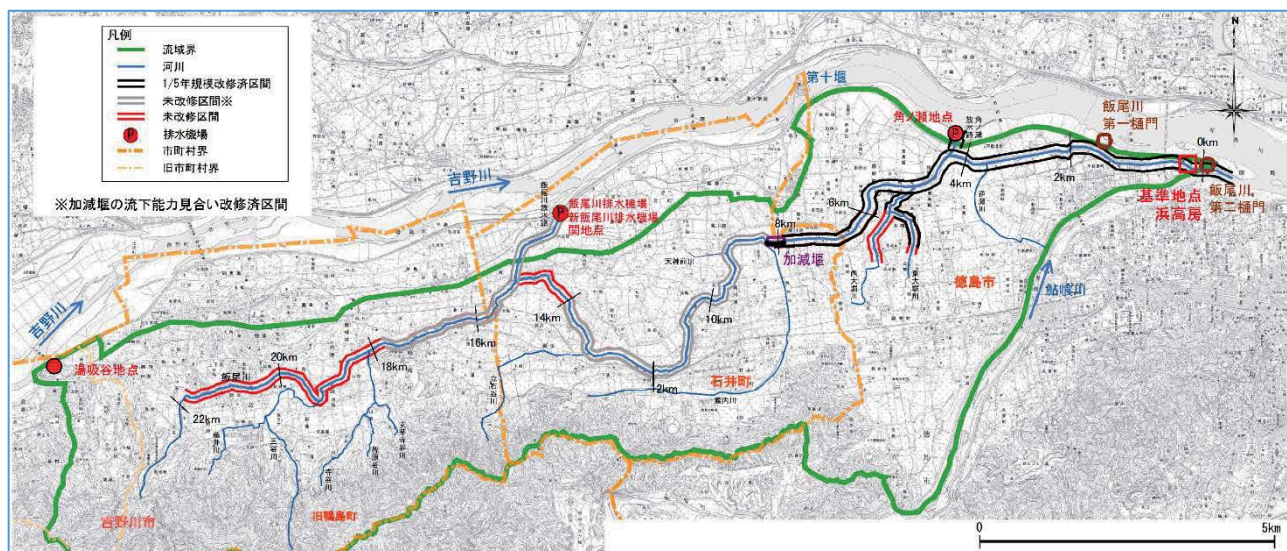


図4 飯尾川河川改修状況図

なお、狭窄水路として長らく残された「加減堰」は、飯尾川の上下流問題の象徴として最大の懸案でしたが、角ノ瀬排水機場や下流河道の進捗を踏まえ、平成25年に狭窄部の半分（右岸側）が撤去されました。設置以来約80年後の出来事でした。

低平地を吉野川とほぼ並行に流れる飯尾川の河川改修は、本川築堤の完成を契機として顕在化した支川氾濫対策のため、昭和7年からはじまり、その目的は飯尾川の自己流対策に加えて吉野川の内水対策としての側面も大きく、治水方策は人工狭窄部や放水路整備など上下流バランスに重点を置いたものとなっており、国と徳島県では、役割分担の下で事業を実施しています。



写真8 現在の加減堰  
(渡内川直下流の加茂野橋から下流を望む)

令和4年は、飯尾川改修着手以来90年の節目を迎えますが、1/50の河道改修や内水対策は道半ばであり、今でも加減堰の左岸側が残されており、治水の上下流バランスの難しさを感じることができます。また、河川改修の多くは吉野川や飯尾川のように、世代を超えて長期間に渡り整備を続けています。

河川整備に携わる私たちには、上下流・左右岸バランスを考慮した公平公正な判断ができるよう、川の流れの歴史を知ることが求められていると思います。



# 吉野川講座

## ～川を知り、安全に川を楽しもう～

本格的な夏を迎え、水辺に行く機会も多くなると思います。吉野川水系にもたくさんの川遊びスポットがあり、毎年多くの人でにぎわっています。

川は自然豊かでとっても楽しい場所ですが、危険な場所や、急な増水などにより事故につながる恐れもあります。

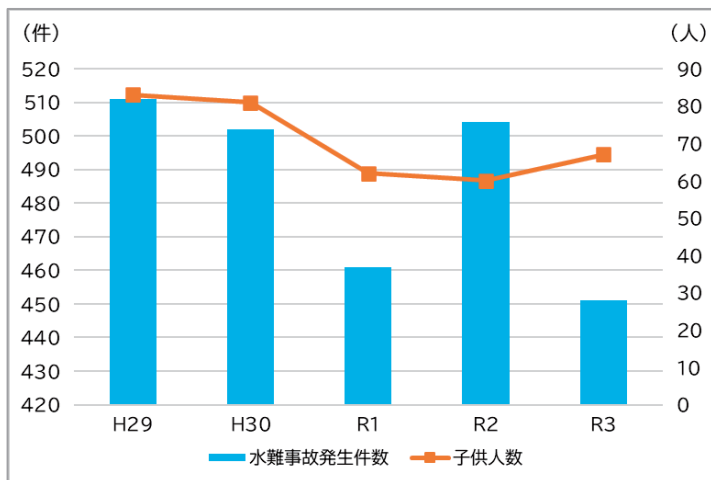
今回の吉野川講座では、安全に川遊びをするために知っておいてもらいたいことをご紹介します。



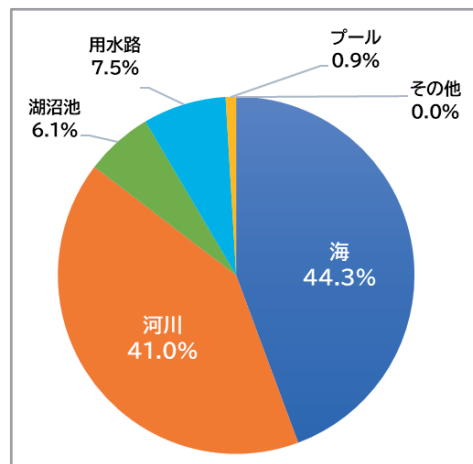
写真 1.「交流体験 in よしのがわ」での川遊びの様子

### 1. 令和3年夏期\*における水難事故の状況（※令和3年7月～8月）

毎年全国で水難事故が発生し、多くの方が犠牲になっています。そして、場所別の死者・行方不明者数の内訳をみると、河川での割合が4割を越えています。楽しいはずの川遊びで危険な目に遭わないためにも、川の危険と、川で遊ぶときに気をつけることについて、しっかり確認しておきましょう。



グラフ 1.水難事故発生状況と子供（中学生以下）の被害者数の推移（過去5年間）



グラフ 2.場所別 死者・行方不明者数（令和3年・夏期）

（警察庁生活安全局生活安全企画課 「令和3年夏期における水難の概況」をもとに作成）

## 2. 川の危険なところ



「浅いところで遊ぶだけだから大丈夫」と思っている、いきなり深くなっている場所にはまってしまう、草で覆われている所で足を滑らせてしまうなど、川にはたくさんの危険が潜んでいます。

川で遊ぶ前に、周辺の様子をしっかりと観察して、危険な場所がないか確認しておきましょう。

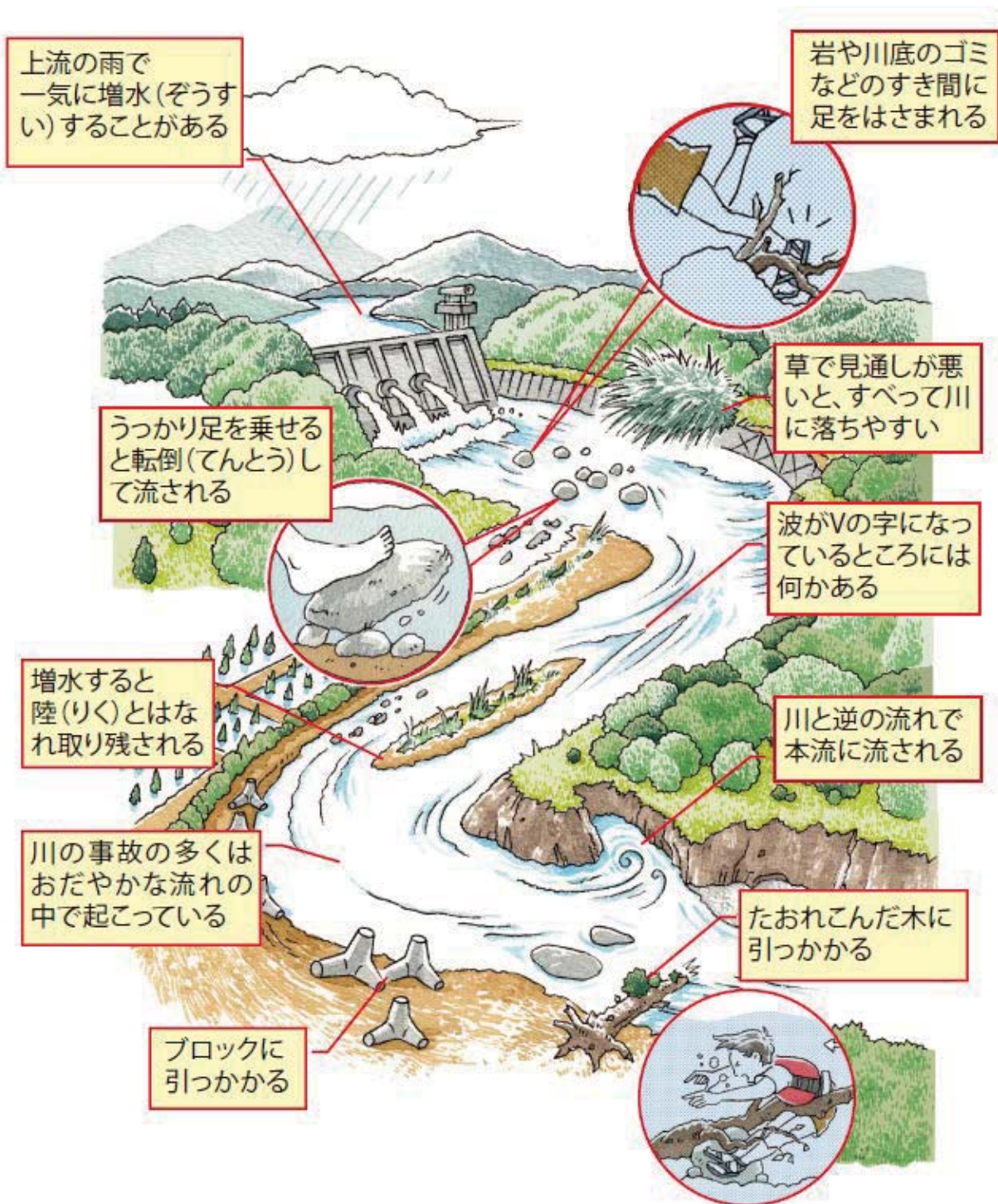


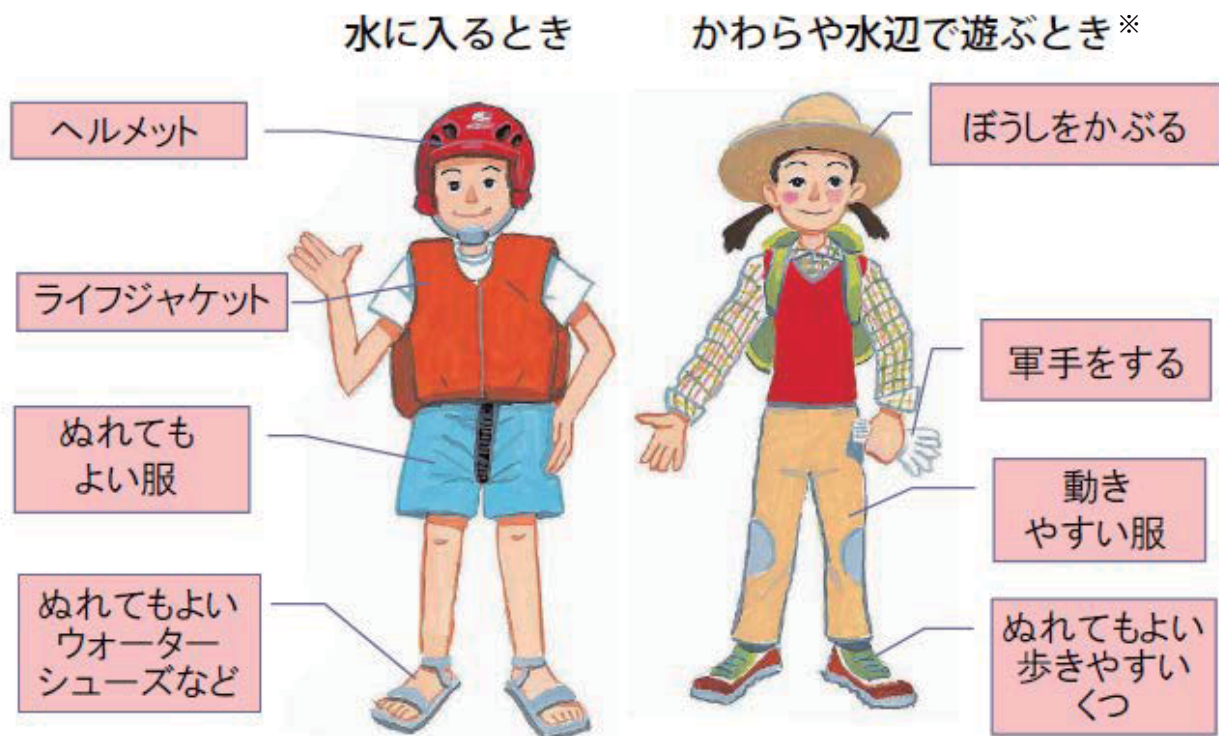
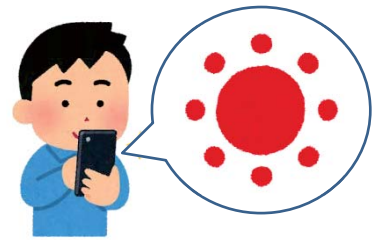
図 1.川の危険な場所（出典：「川を知り、川を楽しもう」ガイドブック）



### 3. 川で安全に遊ぶために

#### ①出かける前にできること

- ・体調が少しでもすぐれない時は行くのをやめましょう。
- ・天気や川の情報をチェックしましょう。上流で降った雨で増水することがありますので、遊びに行く場所だけではなく、上流の方まで確認しておきましょう。
- ・天気が悪くなることが予想される場合は、無理をせず中止・延期の判断をしましょう。
- ・ライフジャケットなどの活動にあった服装や持ち物を準備しましょう。



※川に近づく可能性がある場合は、ライフジャケットを着用しましょう

図 2.川遊びの時の服装（出典：水辺の安全ハンドブック／財団法人河川環境管理財団）



図 3.川遊びに適した靴、適さない靴（「川を知り、川を楽しもう」ガイドブック）

## ②川に着いたら

- 川の近くにある看板には、遊ぶ際の注意が書いてあります。きちんと読んでおきましょう。
- 川や周辺に危険な箇所がないか確認しましょう。
- 遊んでいる時も天気や川の流れに気を付けましょう。
- 雨が降っても橋の下では絶対に雨宿りはしないでください！



### こんな時にはすぐ避難！（川の水が急に増えるサインです）

- 水が流れてくる方の空に黒い雲が見えたとき
- 落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき
- 雨が降り始めたとき
- 雷が聞こえたとき



これらの変化が確認された時は、すぐに川から離れ、なるべく高い場所に避難しましょう。

### 「水難事故防止講習会」の取組について

徳島河川国道事務所では、吉野川交流推進会議と共催で毎年夏休み期間中に実施している「交流体験 in よしのがわ」の中で、「水難事故防止講習会」を実施し、水難事故防止に関する正しい知識と心構えについてお伝えしています。

講習会では、今回ご紹介した内容を含め、ライフジャケットの正しい着用方法や、川に流されてしまった場合の流され方などを体験してもらうことで、水難事故防止の意識向上に努めています。



写真 2.「水難事故防止講習会」の様子



川楽しく遊んだ後は、後片付けをしてゴミを持ち帰りましょう。川は多くの人々が利用している場所であり、貴重な自然の一部です。利用するときには、自然環境に配慮することも忘れないでくださいね。





# 大規模洪水に備え、**演習**を実施しました！

## ～令和4年度 堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション～

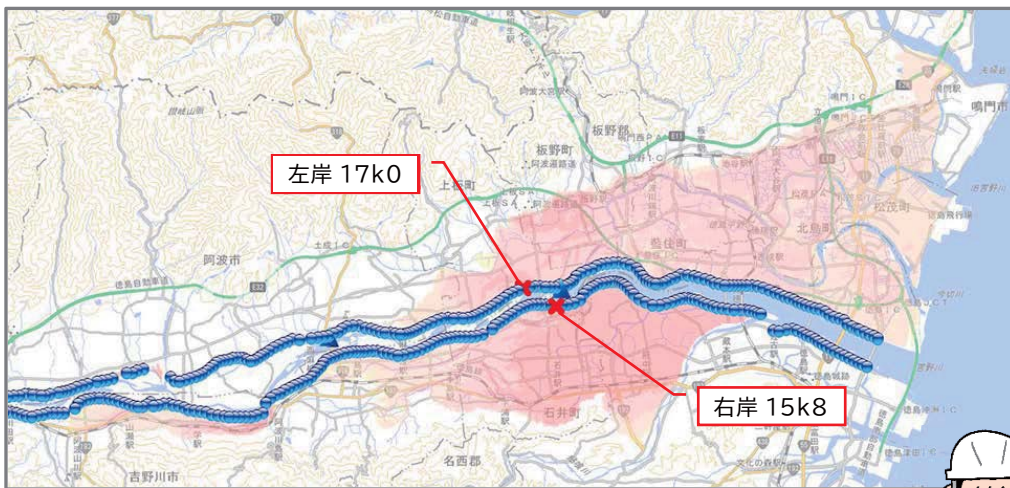
徳島河川国道事務所では、令和4年6月14日（火）に「堤防決壊を想定した緊急対策シミュレーション」を実施しました。

「堤防決壊」については、発生頻度が少ないものの、令和元年東日本台風（台風19号）及び、令和2年7月豪雨等において複数個所で堤防決壊が生じており、このような近年の降雨状況を踏まえると、吉野川でもいつ発生するかわからない状況にあると言えます。

「堤防決壊」という最悪な事態に備えるためには、日ごろから問題意識を持つとともに、万全の準備を図ることが重要であることから、平成19年度より毎年実施しています。

### 想定

大規模な洪水が発生したことにより、吉野川左岸 17k0 付近、及び右岸 15k8 付近が決壊。2 週間後に台風が上陸する恐れがある



堤防決壊による最大浸水エリア（計画規模）（5 時間後）

出典：「地点別浸水シミュレーション検索システム」（浸水ナビ）をもとに合成

「浸水ナビ」とは、浸水想定区域図を電子上に表示するシステムです。

自宅や職場がどれくらい浸水する恐れがあるのかあらかじめ調べておき、水害への事前の備えや、安全確保の行動につなげましょう。



浸水ナビ



### 対応

吉野川の水位や、決壊により浸水したエリアの状況等に配慮しながら、以下の項目について検討しました。

- ①緊急復旧
- ②応急復旧堤防築造の工法
- ③復旧に必要な資機材や運搬路の確保 等



堤防復旧検討の様子

近年発生している大規模災害に対応するために、今回は、同時に2カ所が決壊したという想定で、それぞれの復旧に必要な資材の情報共有や調整を行うなど、実践的な演習となりました。今後も日頃から、緊急時にどう対応するか、ということと結び付けながら業務に取り組み、いざという時に落ち着いて対応できるように、危機管理能力の向上を図っていきます。

～岩津下流無堤地区解消！～

## 勝命堤防竣工式を開催しました

吉野川下流の無堤地区解消に向けて、勝命箇所において、谷島地区では平成27年3月に築堤工事が完了し、伊沢市地区では令和3年7月に築堤工事が完了したことで、すべての工事が完了しました。これにより、明治18年の国による本格的な治水事業が始まって以来、136年の時を経て、河川整備計画における岩津下流の築堤工事が全て完了しました。

歴史的に大きな意味を持つ勝命堤防の竣工式が、令和4年6月11日（土）に執り行われ、関係者約60名参列のもと、岩津下流無堤地区解消の悲願達成を祝うとともに、さらなる吉野川流域の発展のため、防災減災国土強靱化対策、流域治水をより一層推進し、徳島県流域市町と連携した河川整備にしっかり取り組んでいくことを確認しました。



四国地方整備局長  
式辞



徳島県知事  
挨拶



阿波市長  
挨拶



阿波おどり（龍虎連）



パネル展



徳島河川国道事務所長  
事業概要説明



くす玉開披



# 勝命堤防工事概要

勝命箇所は吉野川の河口からおよそ 35km 上流の左岸側に位置しています。過去から浸水被害が頻発しており、平成 16 年台風 23 号による洪水時には、民家 8 戸を含む約 29ha の浸水被害が発生しました。

浸水被害の解消のため、伊沢市工区・谷島工区では堤防約 2.4km、樋門 3 基を整備しました。

谷島工区の下流では、阿波市により建築基準法第 39 条に基づき「阿波市災害危険区域に関する条例」が施行され、約 2.5ha の土地を災害危険区域に指定し、建築の制限が定められ、浸水範囲にあった家屋については移転にご協力いただきました。

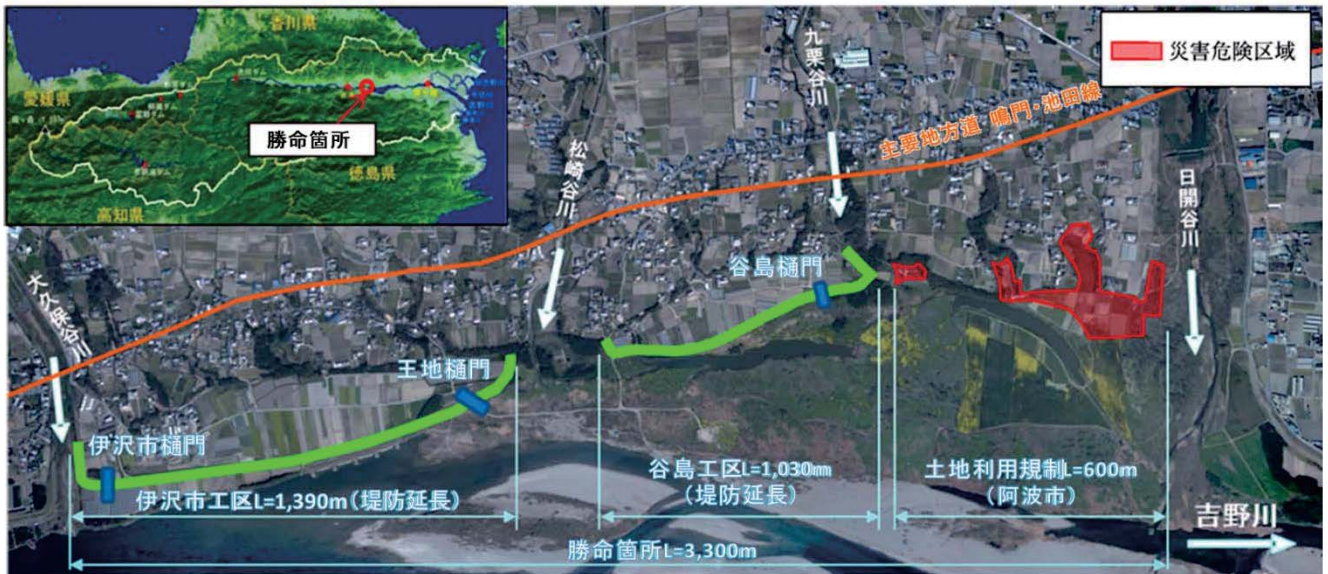


図 1 工事概要

## 谷島工区

平成 24 年度に谷島工区の用地買収及び築堤工事に着手し、平成 27 年 3 月に築堤工事が完成しました。



写真 1 工事着手前状況  
(下流より望む)



写真 2 谷島堤防完成状況  
(下流より望む)



写真 3 谷島樋門完成状況



写真 4 堤防整備と併せ  
市道を拡幅



写真 5 工事着手前状況  
(上流より望む)



写真 7 伊沢市堤防完成状況  
(上流より望む)



写真 6 伊沢市堤防完成状況  
(上流より望む)



写真 8 築堤施工状況

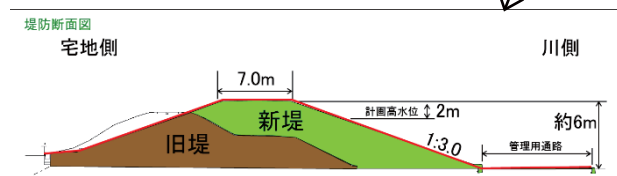


図 2 伊沢市堤防断面



# 国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

強くて、しなやかなニッポンへ

防災・減災、国土強靱化のための  
5か年加速化対策等の工事進捗状況

～吉野川水系吉野川～

## 吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策

吉野川水系を管轄する徳島河川国道事務所においては、時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うための「頻発する風水害への対応」や「切迫する大規模地震等への対応」として「5か年加速化対策」等の工事を以下の地区で進めています。



図1.吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策地区（※現時点で事業着手している箇所を表示）

## 事業目標及び状況（令和4年5月末現在）

### ■流量確保（堤防整備、地震・津波対策、樋門新設・改築、河道掘削、樹木伐採）

- ①堤防整備
  - ・対策必要箇所22箇所のうち、令和7年度までに14箇所着手（予定）
  - ・4月末時点で7箇所着手し、現地調査、用地買収、築堤工事、樋門工事を実施中（この内、勝命箇所です工事完了）
- ②地震・津波対策
  - ・対策必要箇所4箇所（旧吉野川河口堰下流）において、2箇所（豊久地区、向喜来地区）で耐震対策工事を実施中
  - ・令和3年12月末で中瀬地区、令和4年1月末で矢倉地区が工事完了。
- ③樋門新設・改築（耐震）
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに4箇所着手（予定）
  - ・4月末時点で1箇所着手し、榎瀬川樋門では仮設撤去工を実施中
- ④河道掘削
  - ・対策必要箇所10箇所のうち、令和7年度までに3箇所着手
  - ・4月末時点では、協町第一地区、沼田地区、中喜来地区で河道掘削工事を実施中
  - ※掘削範囲の樹木伐採も含む

### ■堤防強化（堤防拡幅、漏水・侵食対策、粘り強い堤防策）

- ①漏水対策
  - ・対策必要箇所2箇所（川島地区、西林地区）で漏水対策工事完了
- ②侵食対策
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
  - ・4月末時点では、川島地区で侵食対策（河道掘削）工事を実施中

### ■老朽化対策

- ①無動力化
  - ・対策実施箇所8箇所のうち、4箇所完了済み、5月末時点で残り4箇所が完了（工事完了：書院谷樋門・大楠樋門・喜来樋門・孫十郎谷樋門）  
（新規完了：協町第三樋門・別所樋門・杉ノ宮樋門・浪打樋門）



## 吉野川水系における工事進捗状況



前ページで紹介した対象地区のうち、令和4年5月末時点での主な地区の進捗状況は以下の通りです。（丸数字の番号は、図1（前ページ）の番号に対応）

     流量確保    
      堤防強化    
      老朽化対策

### ●主な地区の施工状況（令和4年5月末時点）

No	地区名	所在地	整備内容	事業進捗
②	沼田地区	美馬市	堤防整備	工事実施中（事業延長約2.0kmのうち約43%進捗）
④	新喜来地区	北島町	堤防整備	工事実施中（事業延長約0.8kmのうち約72%進捗）
⑧	向喜来地区	鳴門市、松茂町	地震・津波対策	工事実施中
⑫	中喜来地区	松茂町	河道掘削	工事実施中（全体掘削量約46千m <sup>3</sup> のうち約41%進捗）
⑬	川島地区	吉野川市	侵食対策	工事実施中（事業延長約1.0kmのうち約27%進捗）
⑭	樋門無動力化	三好市、美馬市	老朽化対策	工事完了（8箇所）

#### ≫堤防が出来るまで

詳細  
設計

現地  
調査

用地  
買収

工事

堤防  
完成

#### ≫地震・津波対策が出来るまで

仮設  
設置

地盤  
改良

築堤  
護岸

仮設  
撤去

堤防  
完成

### ▶堤防整備の進捗状況

②沼田地区：用地買収、築堤、樋門工事／約43%の進捗（※築堤箇所の整地完了）



着手前



R4.5月末時点

④新喜来地区：築堤工事／約 72%の進捗

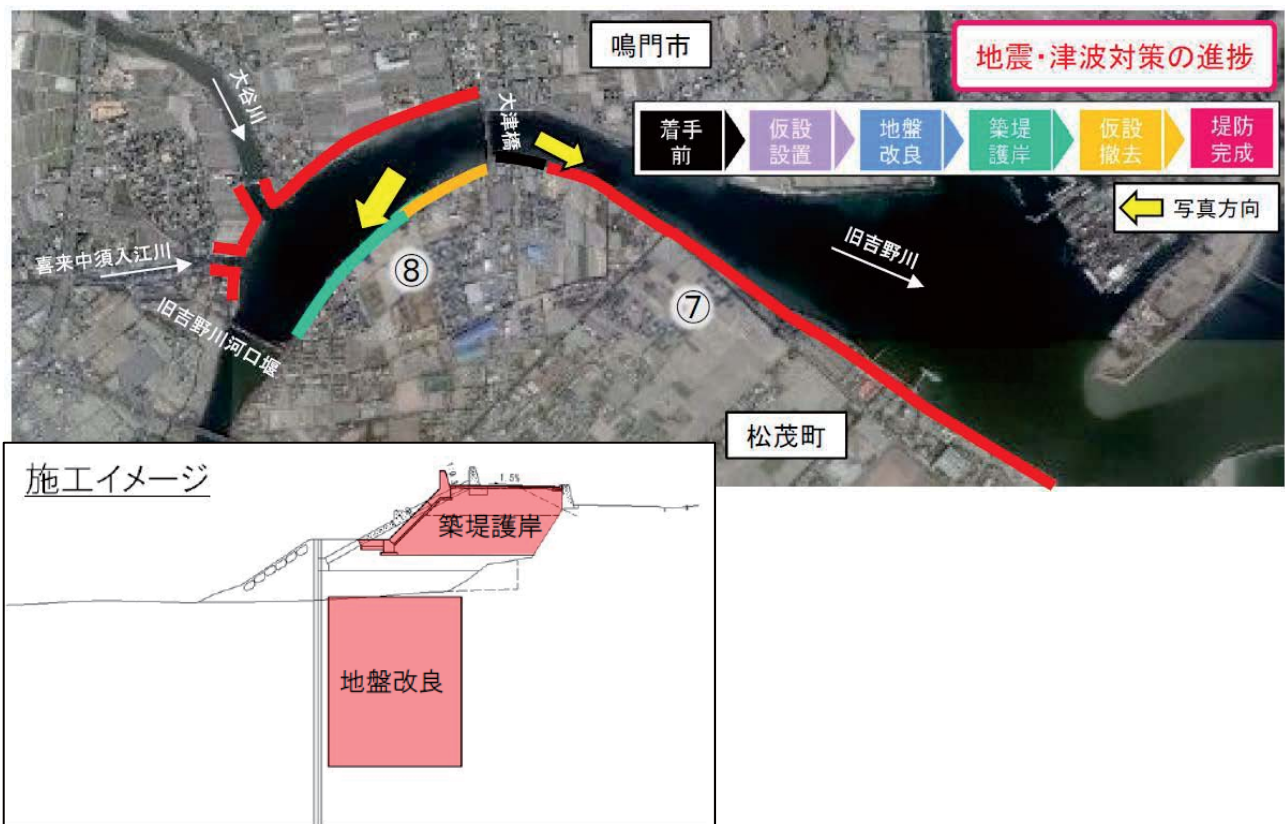


着手前



R3.6 月末時点

▶ 地震・津波対策における各地区の施工状況



⑧向喜来地区：耐震対策工事／築堤護岸



着手前



R4.4 月末時点



▶ 河道掘削工事の進捗状況

⑫中喜来地区：河道掘削工事／約 41%の進捗



着手前



R3.6 月末時点

▶ 堤防強化対策の進捗状況

⑬川島地区：侵食対策（河道掘削）工事／約 27%の進捗



着手前



R4.3 月末時点

▶ 老朽化対策の進捗状況

⑭脇町第三樋門：樋門の無動力化工事／完成



着手前



R4.5 月末時点



「Our よしのがわ」では、今後も定期的に国土強靱化に関する吉野川水系の工事進捗状況を発信していく予定です。また、徳島河川国道事務所のウェブページでは、全箇所を進捗状況を毎月更新しています。詳細はこちらをご覧くださいことができます。

徳島河川国道事務所ウェブページ

防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/kokudokyoujinka/kokudo.html>





## 吉野川河川一斉清掃

～たくさんのゴミが集まりました～【河川占用調整課】



7月の河川愛護月間行事の一つとして、徳島河川国道事務所では昭和49年より毎年7月の第1日曜日に池田ダムより下流の吉野川及び旧吉野川、今切川において河川一斉清掃を行っており、地域の恒例行事としても定着していました。過去2年の新型コロナウイルス感染症拡大による中止を乗り越え、本年度感染症対策に配慮したうえで、3年ぶりの開催となりました。当日は雨のちらつく天候となりましたが、それでも多くの沿川住民、河川利用者等にご参加いただくことができました。ありがとうございました。

- 実施 日： 令和4年7月3日（日）
- 参 加 数： 85団体（約1,500名）
- 回収したゴミの量： 約35.4m<sup>3</sup>（4トントラックで約12台分）

可燃ゴミ約15m<sup>3</sup>、不燃ゴミ約12.8m<sup>3</sup>、資源ゴミ約7.6m<sup>3</sup>



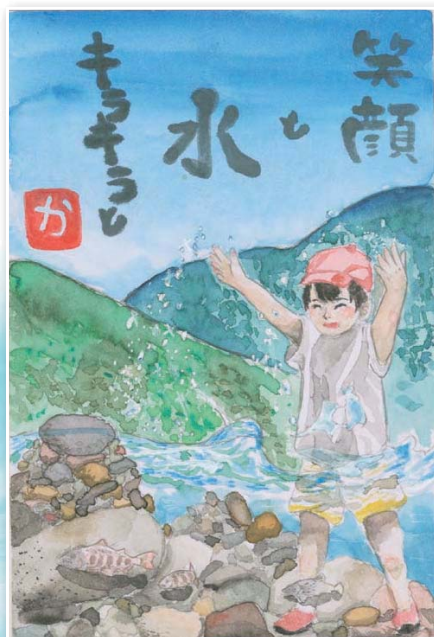
徳島河川国道事務所では、これからも地域の皆様と一緒に親しみのある美しい吉野川をつくっていきたいと考えており、次年度も吉野川河川一斉清掃の開催を予定しています。また、事務所一同、地域の皆様のご参加をお待ちしています。



7/7は  
川の日です



国土交通事務次官賞：真鍋 莉胡さん  
(豊岡市立豊岡南中学校)



国土交通大臣賞：太田 かれんさん  
(鎌田市立豊田南中学校)



国土交通事務次官賞：新田 蓮さん  
(東かがわ市立大内小学校)

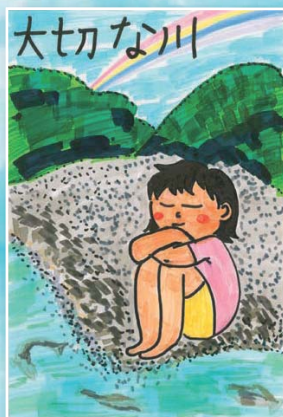


国土交通事務次官賞：松本 悠加さん  
(長岡京市立長岡第九小学校)

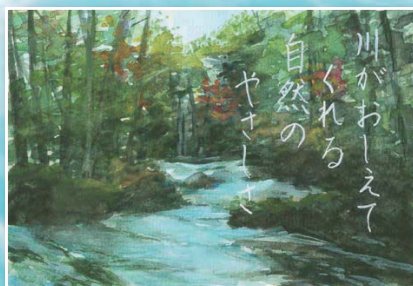
せせらぎに ほくも魚も すきとおる

# 河川愛護月間

7月1日～7月31日



国土交通事務次官賞：岡本 彩佐さん  
(徳島市加茂南小学校)



国土交通事務次官賞：笹尾 咲来さん  
(米子松陰高等学校)



国土交通事務次官賞：古賀 結花さん  
(東京都)

**"絵手紙"募集中!!**

詳しくは

<https://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>

令和4年10月14日(金)必着

今すぐアクセス



◆標語(平成22年募集)は国土交通大臣賞 松永 卓真さん(熊本県八代市立太田郷小学校)の作品  
◆絵手紙(令和3年募集)は国土交通大臣賞他を受賞された方々の作品

- 主催：国土交通省／都道府県／市町村
- 後援：内閣府／NHK／一般社団法人日本新聞協会／一般社団法人日本民間放送連盟
- 協賛：公益社団法人日本河川協会／公益財団法人リバーフロント研究所／公益財団法人河川財団／全国治水期成同盟会連合会／全国水防管理団体連合会／一般社団法人建設広報協会／一般財団法人河川情報センター／一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団／全国建設弘済協議会／一般社団法人全国海岸協会

7月1日～7日は河川水難事故防止週間

〈川の防災情報〉 <https://www.river.go.jp/index>  
〈気象庁天気予報〉「市外局番」+「177」



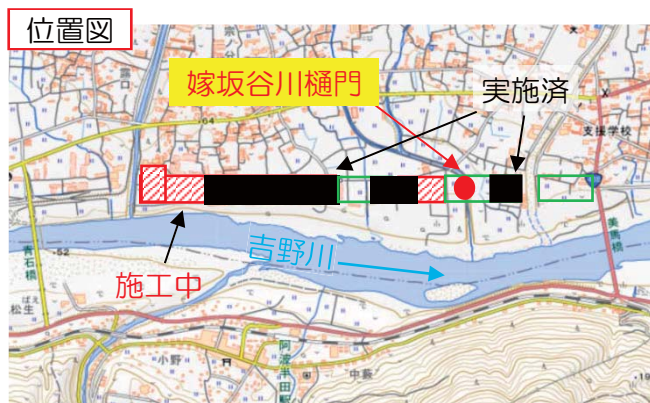


## 建設業の生産性向上及び安全性向上、担い手確保を目指して

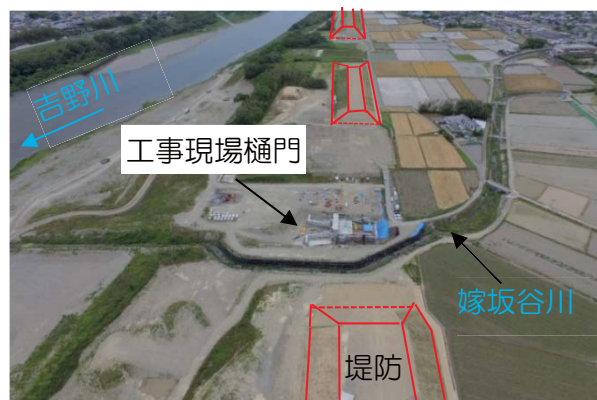
### — 定置式水平ジブクレーンについて —【吉野川美馬出張所】

現在、吉野川上流の美馬出張所管内では、洪水の被害を防ぐため無堤地区の沼田(美馬市)に堤防を整備中です。堤防での閉切にあたり、嫁坂谷川には樋門の工事を実施しています。

今回はこの現場で使用している定置式水平ジブクレーンをご紹介します。



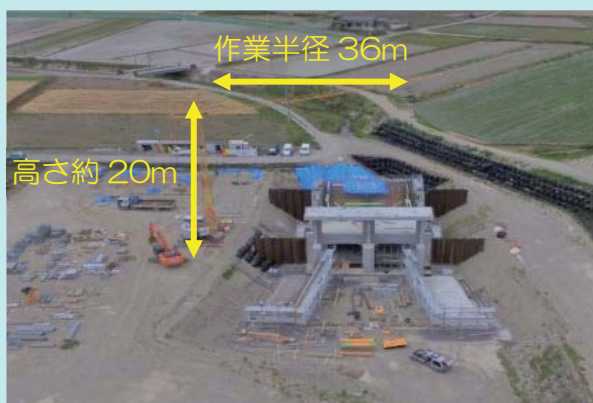
出典：国土地理院



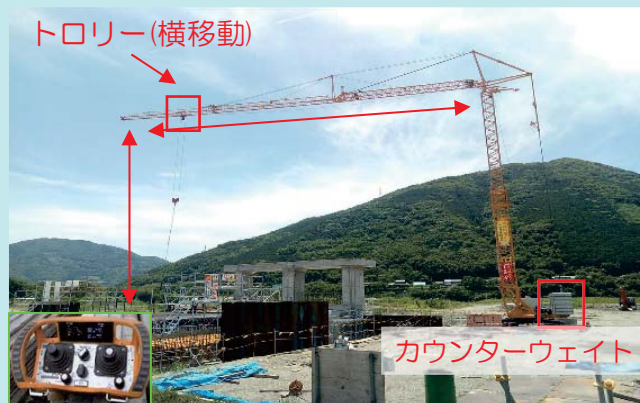
R4年6月1日時点

### 定置式水平ジブクレーンの特徴

- ①資機材の吊り上げ・吊り下ろし・横移動が主な用途。
- ②カウンターウェイト（コンクリート及び鉄）により支柱を固定する設置式。
- ③吊りフックのトロリーが常に一定の高さ。
- ④現場内の広範囲に吊りフックが到達する。
- ⑤操作研修を受講することで操作可能で、高齢者や女性でも容易に操作可能。  
（資格はクレーン運転(特別教育)）
- ⑥無線リモコンなので、吊荷の見える場所で操作が可能。



↑ 定置式水平ジブクレーンの作業半径は36m



↑ 定置式水平ジブクレーンの全景とリモコン

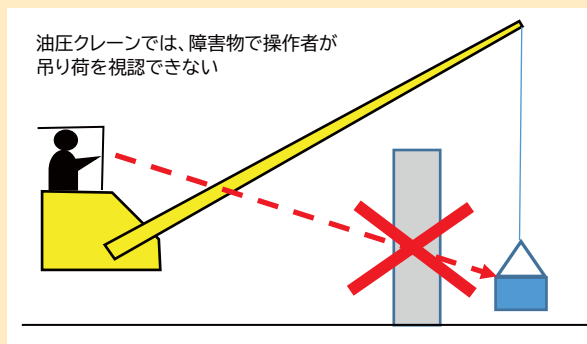
### <ジブクレーン規格>

この現場のジブクレーンは、支柱の高さを13m～27mまで調整して設置可能です。  
作業半径は、支柱を中心に36mの範囲、水平から30°までは角度調整が出来ます。  
吊れる重さは、支柱から20m付近までは2.3t、その後変化し36mでは1.2tになります。



## 従来と比べてどのように変わったの？

### ～従来の場合～



上記写真のように資機材等を運ぶのに手作業で行っているため、資機材の多い現場では、一度にたくさんの量を運ぶことが出来ず、運搬に多くの手間をとり、作業員には負担がとて大きく、重労働となっていました。また、ラフタークレーンを使用する際は障害物などがあると、運転者が目視で、吊り降ろしの状況を確認出来ないため、事故等に繋がる恐れがあります。

### ～ジブクレーンを使用した場合～



上記写真のように、コンクリート構造物の施工で足場が立ち並び、入り組んだ今回の現場においても、資機材はクレーンで、運びたい場所の真上から、吊り降ろしが出来ます。また、資機材は一度に1.2 tまで運搬が可能です。このほか、リモコン操作により、作業現場の近くで、目視による、荷物の吊り上げ、吊り降ろしが出来ます。

## 定置式水平ジブクレーンを使って良かった点（施工業者さんの声）

- ①自ら操作出来るため、自分たちの好きな時に操作が出来る。(時間の余裕)
- ②いつでもクレーンを使用できるという気持ちの余裕と安心感がある。
- ③ラフタークレーンだと死角で見えない場所は、無線等で作業していたのが吊荷の見える場所でリモコン操作が出来るので安全性が向上した。
- ④作業半径が広く施工現場全体にクレーンが届くので今まで作業員が手運びしていた機械や資材もクレーンを使って運ぶので作業効率や階段等危険な箇所でも重い資材を持って歩かなくて良くなり安全性にも繋がっている。



県西土木(株) 近久 監理技術者

安全性や生産性向上により、従来の建設土木のイメージを払拭し、労働者の確保や若い技術者の確保を目指して取り組んでいます。

## 重要水防箇所を市町と合同で巡視しました

～出水に備え 1 市 3 町の首長等と現地確認～

台風や前線等に伴う出水に備え、より一層の水防体制の強化を図るため、吉野川・旧吉野川・今切川（国管理区間）における重要水防箇所の現地状況を確認し、情報を共有することを目的として、今年度より徳島河川国道事務所長と各市町首長による合同巡視を行っています。

令和4年は、阿波市、松茂町、北島町、東みよし町の首長等と現地確認を行いました。

6 月 1 日(水)



北島町 古川 保博 町長  
(共栄橋付近)



東みよし町 川原 誠男 副町長  
(加茂第二箇所付近)

6 月 15 日(水)



阿波市 藤井 正助 市長  
(大野島橋付近)



松茂町 富士 雅章 副町長  
(中喜来箇所付近)

令和4年度の重要水防箇所に関する資料は、徳島河川国道事務所のウェブページで公開しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/suiboukasyo/suiboukasyo.html>





## 重要水防箇所とは

重要水防箇所とは、洪水時に堤防が崩れたり、洪水が堤防を越えたりするなどの恐れがあり、重点的な見回りや点検が必要な箇所のことです。点検する堤防の区間が長いため、堤防高さや幅、被災実績などからあらかじめ水防上重要な区間を定めることで効率的な点検ができ、危険な箇所の早期発見を行うことにより、水防団の方々が土のうを積むなどの迅速な水防活動を実施することができます。



水防団による水防活動  
(月輪工法)

重要水防箇所は、堤防の高さや大きさ、過去の災害の実績などから2段階に分類しています。

【重要度 A】洪水時に被災を受ける可能性がある区間

【重要度 B】A ほどではないが、被災を受ける可能性がある区間

## 「水防」とは

「水防」とは、洪水あるいは洪水のおそれがある時に、

- 地域に住んでいる人々(住民)が中心となって
- 土のう積み等の水防工法で川があふれるのを防いだり
- 注意を呼びかけたり
- 避難をしたりすること



積み土のう工など  
水防工法の実施

で、水害による人命や財産への被害を防止あるいは軽減することが主な活動です。国や地方自治体も、気象や河川に関する情報や水防資器材（排水ポンプ車）の提供などを通じて住民の活動を支援しています。



事前の避難訓練の実施



河川に関する情報提供



水防資材の提供

吉野川流域の堤防は、大正・昭和初期につくられたものが多く、現在まで順次拡幅されてきました。時代により築堤材料や施工方法が異なるため、土質分布や強度が不均一であり、堤体内部の土質構造が複雑であること、また、基礎となる地盤についても、洪水等によって形成された河床材料である箇所が多いことから、堤防内部の「水みち」の形成・拡大が懸念されています。(Our よしのがわ Vol.30) 重要水防箇所の巡視、市町の水防団が実施する堤防の監視などの水防活動は重要な役割を担っています。



## 国土交通省・徳島県・阿波市・美馬市の合同で 「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました。

【実施日時】 令和4年6月15日（水）午前9時頃～午後3時頃

【実施場所】 阿波中央橋下流の吉野川市鴨島運動場

本年は6月13日から梅雨入りし、梅雨前線や台風等による本格的な出水期が始まりました。

そこで、出水時災害等に備え、保有する排水ポンプ車の迅速かつ確かな操作を実施するための「排水ポンプ車操作訓練」を実施しています。

今回は、徳島河川国道事務所に加え、徳島県・阿波市・美馬市から、各機関が所有する排水ポンプ車と操作関係者が訓練に参加し、排水ポンプ車の操作に必要な技術の向上・習得をすると共に、関係者間で知識・情報の共有を図りました。

訓練は、国土交通省は排水ポンプ車8台、徳島県は排水ポンプ車2台、阿波市は排水ポンプ車1台、美馬市は排水ポンプ車1台を使用し、訓練参加者は合計約120名で行い、排水ポンプ車の据付から撤去までの一連の訓練を行いました。

最近では、令和元年の令和元年東日本台風（台風第19号）時に、排水ポンプ車6台を派遣するなど、吉野川沿岸だけに留まらず、全国に向けて活動を行っています。

冒頭でも述べましたが、6月より出水期に入るため、今回の訓練での経験を生かせるよう精進して参りたいと思います。





## 吉野川防災パネル展を開催しました

「水防月間」（5月1日～5月31日）及び「土砂災害防止月間」（6月1日～6月30日）における防災活動の一環として、国土交通省徳島河川国道事務所では、毎年「吉野川防災パネル展」を開催し、地域住民の皆様への啓発に努めています。

今年も徳島県立防災センター（北島町）、貞光ゆうゆう館（つるぎ町）、フジグラン石井（石井町）、鴨島公民館（吉野川市）の協力をいただき、過去の災害に関するパネルや、治水への取組に関するパネル等を展示しました。

※本施策は、四国圏広域地方計画の広域プロジェクト【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】に該当します。



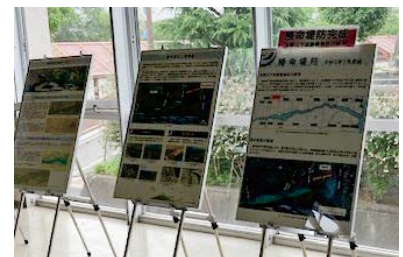
▲徳島県立防災センター  
（開催期間：5/10～5/29）



▲貞光ゆうゆう館  
（開催期間：5/16～5/30）



▲フジグラン石井  
（開催期間：6/6～6/13）



▲鴨島公民館  
（開催期間：6/20～6/27）

## とくしままちなか花ロード Project「花植え会」が開催されました

令和4年5月21日（土）にとくしままちなか花ロードProject「花植え会」が開催され、徳島河川国道事務所有志含め、地域や企業などから多くのボランティアが参加し、徳島駅周辺道路に色とりどりのペチュニア約3万株を植えました。

当日は早朝から小雨が降る曇り空でしたが、土が適度に湿り、気候も作業するにはちょうど良く、参加者は協力しながら約2時間かけて苗を植えていきました。

この花植え会は、地域や企業等の皆様の多大なるご協力によって継続して開催されており、平成26年11月からは、現在の「とくしままちなか花ロードProject」と題して、活動範囲を拡大し、今回で24回目の開催となりました。

道路管理者として非常に有り難い活動と考えており、これからも継続されるよう、当事務所としても徳島の中心市街地を花いっぱいにする活動にご協力して参ります。



# 吉野川 Diary

～「コウノトリ・ツルでつながる阿波の国」こぼれ話～

## アオアヲナルトリゾートの環境保全アクション 『SDGs コウノトリ応援 宿泊プラン』が人気です

この宿泊プランは、コウノトリが暮らす環境を守る活動などを行っている『特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金』に1泊につき1人100円の寄付がされ、同時にホテルからも1人につき100円が寄付される仕組みです。今年の4月に発売を開始したところ予想以上の予約をいただいているそうです。

宿泊プランを企画したのが「鳴門地区地域・人づくりワーキング」メンバーで、アオアヲナルトリゾートのアシスタントセールスマネージャーの塩崎桂子さんです。ワーキングに参加したことをきっかけに「ホテルとして貢献できることはないか」と考え、ホテル全体でプラン内容を検討しました。コウノトリが棲みやすい場所は人にとっても暮らしやすい安全な場所。コウノトリを守ることは、循環型のSDGsに繋がると考えています。

宿泊プランを利用するお客様は家族連れも多く、「どこでコウノトリが見られますか？」と、よく聞かれるようになりました。子ども達にもコウノトリについて興味を持ち、知ってもらえる機会となっています。利用者特典の『コウノトリ観察ガイドマップ』を手に出かける方も増えています。

### ホテルのSDGsへの取り組み

活動は多岐にわたっています。例えば、

- 海の清掃活動
  - ゴミの削減
  - 連泊のお客様がシーツ類の不交換希望の意思表示ができるカードの用意
  - トイレトーパーの使い切り協力依頼
  - プラスチックの削減
  - 地産地消を積極的に活用し、地元の生産者から直接購入
- などを実践しています。

アオアヲナルトリゾートウェブサイト  
SDGsへの取り組み→



塩崎さんが作成した『コウノトリ観察ガイドマップ』。どこに行けばコウノトリに会えそうか、人とコウノトリの大きさを比較したイラストなど興味深い内容が掲載されています。コウノトリのポストカードやステッカーもプレゼント中です。

## 編集後記

いよいよ夏本番です。今年は少しずつイベントの開催も増え、久しぶりにワクワクする夏を過ごせそうですね。しかし、夏は出水期真っただ中だということも忘れてはいけません。

今回の「Ourよしのがわ」では、出水に備えた訓練や、川で安全に遊ぶための注意事項等をご紹介します。出水、水難事故、熱中症に気を付けて、この夏を安全に楽しく過ごしましょう。（宮）

【発刊】：国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

【編集】：Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9175(直通)

FAX(088)654-9177

E-mail:skr-tokusa63@mlit.go.jp

ウェブページアドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



## Ourよしのがわ 編集委員会

- |         |         |
|---------|---------|
| • 白川 豪人 | • 大江 茂徳 |
| • 藤本 雅信 | • 松本 幸一 |
| • 林 昌宏  | • 宮地 正彦 |
| • 佐藤 英人 | • 七條 稔暢 |
| • 藤井 和志 | • 安永 一夫 |